

第21回地理情報システム学会特別セッション(2) 「マイクロジオデータの普及と都市・地域分析での利活用」

<セッション概略>

昨年「マイクロジオデータ研究会」と呼ばれる研究会が発足し、マイクロジオデータの普及と利活用について産官学が共同で議論する場が生まれました。マイクロジオデータとは近年利用可能になりつつある、デジタル住宅地図や電話帳等の空間的精度と網羅性が非常に高いデータや、モバイル統計、GPSログ情報、パーソントリップデータ、Webから収集出来る情報など加工余地が高いミクروسケールの非集計データのことを言います。既存の各種統計データでは実現し得なかった時空間的にきめ細やかな計画・解析等への利活用が期待されています。

本セッションでは昨年に引き続き本研究会の紹介を行うとともに、マイクロジオデータを用いた研究を行っている研究者による研究紹介や、今後マイクロジオデータの利活用が期待される領域の実務者などによる講演が行われる予定です。今年は特にまちづくり・中心市街地活性化・高齢化といった都市・地域研究に関連した研究者や実務者にお集まり頂きます。マイクロジオデータ開発と利活用の最先端を知っていただくとともに、研究者同士が持つマイクロジオデータのシーズとニーズを結びつけて活発な議論が交わされることを期待しています。

<プログラム>

10:50~10:55 「マイクロジオデータ研究会の紹介」

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 特任研究員 秋山祐樹

10:55~11:10 「マイクロジオデータの紹介とマイクロジオデータ研究の最前線」

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 特任研究員 秋山祐樹

11:10~11:25 「iタウンページを用いた広島市内の商業分析」

広島修道大学商学部商学科 教授 川瀬正樹

11:25~11:40 「広島市佐伯区における地域課題の解決について」

広島市佐伯区地域起こし推進課 高橋正弥

11:40~11:55 「大規模モバイルデータを用いた国土スケールの人流の可視化」

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 特任研究員 上山智士

11:55~12:30 公開ディスカッション・質疑等

・コーディネーター

東京大学空間情報科学研究センター 教授 柴崎亮介

・パネラー

株式会社 JPS 代表取締役 平下治

広島修道大学商学部商学科 教授 川瀬正樹

広島市佐伯区地域起こし推進課 高橋正弥

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 特任研究員 秋山祐樹

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構 特任研究員 上山智士

・次回の研究会のご案内

<参加登録(事前のご登録無しでもご参加頂けます。)>

<https://docs.google.com/spreadsheets/viewform?formkey=dEFjOE5wQ1Z3OWtUUUNKTUIKai1oR1E6MQ>

<研究会ホームページ>

・マイクロジオデータ研究会ホームページ

<http://geodata.csis.u-tokyo.ac.jp/wp/>

・本特別セッションに関するホームページ

<http://geodata.csis.u-tokyo.ac.jp/wp/?p=490>

第 21 回 GIS 学会大会特別セッション

FOSS4G 日本語ローカライズの現状と課題 FOSS4G 分科会

近年インターネットの世界が拡大することによってオープンソースソフトウェアの開発と普及が加速しています。地理空間情報に関するオープンソースソフトウェア (FOSS4G) に関しても種類の増大や機能の向上が顕著です。これらの FOSS4G は政府や企業での利用から研究機関や個人での利用まで様々なスケールと目的で使われています。開発や利用促進については国際的なコミュニティによって進められていることが多いです。ただし、これらコミュニティに日本からの参加者は少なく国内での GIS 利用と FOSS4G の発展の間には少しギャップがあるようです。QuantumGIS については近年プログラムやドキュメントの日本語が行われたせいか国内での利用例も急激に増加しています。ユーザが増加すればそのソフトウェアの利用方法や問題点の共有も進み、結果としてツールが利用しやすくなるといえます。本セッションではいくつかの FOSS4G ツールや関連する環境のローカライズ状況の事例、方法、課題の発表を行い、それらツールの利用環境を向上させていくための情報交流をパネルディスカッションで行いたい。

【開催日時】 2012/10/13 10 時 50 分-12 時 30 分

【場所】 広島修道大学 会場 B

【司会】 岩崎亘典 (農業環境技術研究所)

【発表】

○QuantumGIS 日本語化の現状と課題 嘉山陽一 (朝日航洋株式会社)

QuantumGIS は高機能のデスクトップ GIS です。ここ数年 QuantumGIS の開発リポジトリにコントリビュートする形でメニューやマニュアルの日本語リソースを作成してきました。その結果近年国内の様々な場所で QuantumGIS が利用されるようになってきました。このことでオープンソースソフトウェアのローカライズは国内普及のためには重要な課題であることが明らかになりました。本発表では QuantumGIS ローカライズの経過、手法の報告と現状の問題点、課題の提起を行います。

○SAGA の日本語ローカライズについて 平松孝晋(アジア航測株式会社)

SAGA GIS はドイツの研究者が中心となって開発を進めているオープンソースの GIS です。豊富なラスタ解析アルゴリズムや、R や QGIS との連携機能を持つ、極めて強力なソフトウェアですが、現時点ではヘルプやマニュアル等の情報が少なく、国内での普及はそれほど進んでいません。しかし、ソフトウェア自体には、柔軟なローカライズの仕組みが用意されており、ユーザは自由にメニュー等の言語を変更することが可能です。本発表では、SAGA GIS の概要と翻訳事例の紹介とともに、FOSS4G の翻訳における共通の問題や、用語法に関する話題を取り上げます。

○e コミマップのインターナショナル化とローカライズ 白田裕一郎 ((独) 防災科学技術研究所)

(独) 防災科学技術研究所では、共助での防災活動を支援するオンライン地図ツールとして「e コミマップ」を開発し、オープンソースで公開している。これまでは日本国内での活用を対象としていたため、日本語のみとしていたが、国外での活用や外国人向けサイトの構築への要望も多くあることから、今年度よりインターナショナル化に着手している。インターナショナル化においては、単に英語版を作るのではなく、使用する言語のリソースファイル (表示項目毎に使用したい言語での名称を記載したもの) を作成しインポートすることで、他の言語での画面表示を容易に行えるようにしている。本セッションでは、その概要を報告するとともに、オープンソースソフトウェアのインターナショナル化とローカライズの課題について議論したい。

【e コミマップ: <http://ecom-plat.jp/>】

○FOSS4G 製品タイプによるパッケージローカライズケーススタディ 林博文(応用技術株式会社)

OSGeo が支援するプロダクト製品には統合インストーラから Android アプリまで様々な種類があります。

OSGeo4W インストーラ、デスクトップ系アプリ GRASS-GIS、Andorid 系アプリ gvSIG mini,GeoPaparazzi、WebGIS 系 MapGuideOpenSource を例に、これらの製品を日本語ローカライズする際に生じた問題点等を紹介し、カスタマイズやフィードバックについて考えましょう。

○FOSS4G の普及・活用に向けた OSGeo-Live の開発とローカライズ 瀬戸寿一 (立命館大学)

FOSS4G の普及を目的として、OSGeo-Live という LiveDVD システムが存在する。これは、OSGeo 財団の支援する数十種類以上のツールやライブラリを LiveDVD として収録することで、ユーザーは特別なセットアップの必要なしに試用することが可能である。本発表では、この開発過程と国際化に対応するためのローカライズを取り上げ、FOSS4G への貢献に関する多様な側面について議論したい。

【タイトル】

(特別セッション⑥) 地域の情報基盤に対して大学関係者のできること

～ アカデミック地域情報サポーターズクラブの活動を通じて

10/14 (日) 9:30-11:30

【オーガナイザー】

畑山満則・関本義秀

【概要】

近年の人口減少や予算縮減などの近年の課題を解決しつつ、地域の活力を保持するためには、各地域の情報基盤の存在は欠かすことができず、その維持・活性化のためには、大学関係者に期待される要素は大きい。一方で、助言するためには、政策動向、技術動向、社会ニーズ等についても、普段からの大学関係者の横の連携で、情報共有や一定の共通認識をはかることも重要に思われる。

そこで、本ワークショップでは、1年強実施してきた「アカデミック地域情報サポーターズクラブ」その他の活動の取組紹介や、外部の立場から大学関係者に期待したいこと、あるべき方向性などをディスカッションする。

【登壇者】

- ・畑山満則 (京都大学・准教授)
- ・三谷泰浩 (九州大学・准教授)
- ・野々村敦子 (香川大学・准教授)
- ・浅野耕一 (秋田県立大学・准教授)
- ・関本義秀 (東大C S I S・特任准教授)
- ・伊藤夏生 (国土交通省国土政策局国土情報課・地理空間情報活用推進官)
- ・平岡直樹 (広島県東広島市市政情報課)
- ・浅野和仁 (大阪府富田林市)

特別セッション(7)

■テーマ：日本学術会議の地理基礎・歴史基礎必修化の提言と学校における GIS 教育

■趣旨：

- ・「初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰」の表彰式を執り行う。
- ・GIS を活用した授業を実践している事例を受賞された教員の方々から紹介していただき、他の学校での実践の可能性等について探る。
- ・日本学術会議の地理基礎・歴史基礎必修化の提言の中での GIS 教育の重要性を考える。
- ・提言を受けて学校教育現場において行われている GIS 活用支援の活動例を紹介してもらうとともに、多くの先生方への普及や周知のあり方について考える。

■日時：2012年10月14日（日）12:30～14:10（100分） 会場A

■プログラム：

（セッション全体の進行役…酒井高正教育委員長）

1) 優良事例表彰 15分

1. あいさつと講評（酒井高正審査委員長）
2. 表彰式（司会：巖 網林事務局長）
3. 記念撮影

2) 報告 85分（司会：酒井）

1. 優良事例発表 <45分>

- ・国土交通大臣賞（総合的な観点）

「上野小・三重大 防災学習プロジェクト」殿

津市立上野小学校 中島 功次/平成23年度上野小学校6年生42名

三重大学 福山 薫/中島 美由紀

贈呈者：国土交通省国土政策局国土情報課 伊藤夏生 地理空間情報活用推進官

- ・地理情報システム学会賞（GISの効果的な活用の観点）

千葉県立松戸国際高等学校 小林 岳人 殿

贈呈者：地理情報システム学会 浅見泰司会長

- ・毎日新聞社賞（教育上の効果の観点）

埼玉県越谷市立東越谷小学校 中山 正則 殿

贈呈者（未確定）：毎日新聞社広島支局長（欠席の場合は浅見会長）

2. 伊藤夏生（国土交通省国土政策局国土情報課）「教育とGISに関する国土交通省の取り組み」 <5分>

3. 碓井照子（奈良大学）「日本学術会議の地理基礎・歴史基礎必修化の提言と学校におけるGIS教育」 <10分>

4. 仙石裕明（東京大学・大学院生）・田村賢哉（奈良大学・大学院生）「eDesignによる現場教師へのGIS支援活動」 <10分>

5. 大島英幹（慶應義塾大学・非常勤）「授業用GISデータリンク」 <10分>

6. 総括（碓井） <5分>

【タイトル】

(特別セッション⑧)

データセットが切り開く様々な領域～人の流れプロジェクトを通じて

10/14 (日) 12:30-14:10

【オーガナイザー】

関本義秀

【概要】

近年、交通・防災・観光・マーケティングの分野などでは、都市空間でダイナミックに変化する人々の流れを俯瞰したいというニーズが官民間問わず見られるようになってきている。さらに携帯電話等の普及等でさらにリアルタイムでこうした流動を知ることも可能になってきており、世界的な大きなトレンドが出てきている。

しかし、こうしたデータを大規模に得ようとする、一般的には高価で、簡単に入手することは難しい。そこで本ワークショップでは、C S I Sの共同研究で提供してきた「人の流れデータセット」を通じて、出てきた様々な研究アイデアに関する紹介や、今後のグローバルトレンドの中で、どのように先進性を確保していくかについて議論を行う。

【登壇者】

・関本義秀 (東大C S I S・特任准教授)

「人の流れプロジェクトの歩みとグローバルトレンド」

・上原邦昭 (神戸大学大学院システム情報学研究科・教授)

「時空間データマイニングの研究開発を通じて」

・矢野桂司 (立命館大学・教授)

「大学生の通学経路・手段の時空間分析」